2022年度大学入学共通テスト 解説〈地理B〉

第１問　世界の自然環境や自然災害

問１　1　正解は③

大陸棚の分布図として正しいものを判別する組み合わせ式。問題文の冒頭に「大陸棚は大陸プレートの縁辺部に広がる」とあるから、大陸プレートと海洋プレートの境界がどこにあるのかを読み取ればよい。両地域に共通する「沈み込み型の狭まる境界」では、海洋プレートが大陸プレートの下に潜り込んで、海洋側に海溝、大陸側に火山列・弧状列島を形成する。

東南アジアでは南西側のインド＝オーストラリアプレート（海洋プレート）が、北東側のユーラシアプレート（大陸プレート）の下に沈み込み、この境界に沿ってスンダ海溝と大・小スンダ列島の火山列が並行する（両者の間隔はきわめて狭い）。よって、大陸プレート上にあるはずの大陸棚がaのように火山列の南西側＝海洋プレート上に広がることはない。フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込む境界でも、aでは大陸棚が火山列よりも東側の海洋プレート上に広がっている。よってbが正しい。

中央アメリカでは、ココスプレートが北アメリカプレートなどに沈み込む太平洋側のプレート境界に注目すると、**イ**ではaと同様に火山列の南西側の海洋プレート側に大陸棚が広がっているため誤りとわかる。よって**ア**が正しい。

問２　2　正解は②

ヨーロッパの２河川について、流量や標高の統計表判別と、河口地形の説明文の判別を組み合わせる。ヨーロッパの気候と地形の理解を確かめる問題である。

河川A（セーヌ川）の流路は大半が安定陸塊に位置しており、標高が500mを越える高地はほとんど流れていない。また、流域は西岸海洋性気候（Ｃｆｂ）区にあり、年中湿潤だが降水量はそれほど多くない。このため、上流での侵食量は乏しく、河川による運搬量も少なく、河谷での土砂堆積は進まず、海水の侵入によってエスチュアリーと呼ばれるラッパ状の入り江が形成される。以上から記号は**キ**、文はxが該当する。

河川B（ポー川）は新期造山帯の高峻なアルプス山脈に源流を持ち、イタリア北部を横断して広い沖積平野（パダノヴェネタ平野）を形成する変動帯の河川である。中下流域は日本と同じ温暖湿潤気候（Ｃｆａ）に属し、降水量が多い。このため、上流でさかんに侵食された土砂が河口付近に堆積してデルタ（三角州）を形成している。以上から、記号は**カ**、文はyが該当する。

問3　3　正解は②

アジアの４河川における植生に関する統計表の判別。Gだけを探すのではなく、比較検討しながら４河川とも判定すると確実に選べる。

G（長江）は②。FやHと共にチベット高原に源を持ち、スーチョワン（四川）盆地や中下流の平原を貫流する。中下流の流域は大半が温帯であり、高温部には照葉樹林（常緑広葉樹林の一種）、低温部には落葉広葉樹林が分布する。

E（インダス川）は③。中下流域に乾燥帯を持つ外来河川の典型である。下流域の大半はタール（大インド）砂漠（「裸地」に該当）にあたる。

F（黄河）は④。流路の多くはステップ気候（BS）区にあって「低木･草地」が多い。また、ゴビ砂漠南縁を通り、Eに次いで裸地の割合が高い。

H（メコン川）は①。中下流域の大半が熱帯であり、植生は常緑広葉樹林からなる熱帯林が中心となる。

問4　4　正解は①

オーストラリアにおける気温・降水量に関する等値線図の判別。気候の成り立ちについて、暗記ではなく理解を重視した良問である。なお、南半球であるため、１月が夏、７月が冬であることに注意したい。

気温はP、降水量はQ。オーストラリア大陸は、内陸ほど乾燥して砂漠に覆われている。降水量について、どの季節であっても①のように海から遠い内陸で大きい値を示すことはない。

サは１月、シは７月。この判別には２通りのアプローチが考えられる。

(1)　①と③において、東西の沿岸部で等温線が屈曲している点に注目する。同緯度で比べると、①では海側が（−）、陸側が（＋）となっており、③ではその逆である。陸（岩石）は海（水）よりも比熱が小さいため「熱しやすく冷めやすい」。よって、陸側が高温になる①が夏、陸側が低温となる③が冬。

(2)　②と④において、北部の低緯度地方における降水量の季節変化に注目する。オーストラリア北部には雨季と乾季の明瞭なサバナ（Aw）気候が分布するが、南半球の夏には熱帯収束帯が赤道付近から南側に移動し、この付近が低圧帯に覆われて多雨となる。よって②が夏とわかる。

問5　5　正解は②

アフリカの5地域における自然災害に関する統計表の判別。大地形の分布や代表的な気象災害などに関する基礎知識の応用で解ける。

北部は**タ**。北部の地中海沿いには新期造山帯（アトラス山脈）が分布しており、地震が発生しやすい。

西部は**ツ**。西部では、サヘル（サハラ砂漠の南縁）における砂漠化が深刻で、干ばつなどの災害は頻発するが、表中の災害は少ない。

東部は**チ**。東部にはアフリカ大地溝帯が南北に走っており、周辺では地震・火山活動が活発である（東部のタンザニアにあるアフリカ最高峰キリマンジャロ山や、ケニアのキリニャガ山は火山である。また、2021年に噴火したコンゴ民主共和国のニーラゴンゴ山は、中部と東部の境界付近に位置する）。さらに、東部沿岸にはインド洋で発生する熱帯低気圧（サイクロン）がしばしば来襲する。

問6　6　正解は⑤

日本における雪崩・土砂災害の発生状況に関する統計地図の判別。比較的易しいので、時間をかけずに処理したい。

3～5月は**ム**。東北～中部の山岳地帯で、平地よりも遅い雪解けによる雪崩が散発している。

6～8月は**マ**。西日本を中心に、梅雨の終わり頃の集中豪雨や台風などによる大量の降雨が土砂災害を頻発させている。

9～11月は**ミ**。雪の降り始めが早い北海道で、すでに雪崩の被害がみられる。

第2問　資源と産業

問1　7　正解は④

炭田・油田の分布図の判別と、石炭・石油に関する説明文の組み合わせ。やや易しめの設問であり、確実に得点したい。

油田は**イ**。中東のペルシア湾沿いに△が集中している。

炭田は**ア**。アメリカ合衆国のアパラチア山脈、オーストラリアのグレートディヴァイディング山脈などの古期造山帯に■が確認できる。

石油は**B**。「特定の地域」とは中東を指す。

石炭は**A**。「世界最大の生産国と消費国」とは中国である。中国は生産量では全世界の54.4％、消費量では59.0％を占めている（2018年）。

問２　8　正解は③

世界の人口と１次エネルギー消費量に関するグラフの判別と文章空欄補充の組み合わせ。本年度の共通テストで繰り返し問われた「量と割合」を考察させる問題である。

カはアフリカ。発展途上地域であるため出生率が高く、死亡率の低下に伴って人口が急増している。一方、産業は未発達でエネルギー消費量が世界に占める割合はきわめて小さい。

キはヨーロッパ。先進地域であるため出生率が低下しており、人口規模は横ばいである。産業革命が興った地域であるため、以前からエネルギー消費量が世界に占める割合は高い。

Xは「増えている」。この期間に、アジアの人口は２倍あまりに増えているが、アジアの１次エネルギー消費量は10倍以上の伸びであることがグラフから読み取れる。よって１人当たり１次エネルギー消費量、つまり１次エネルギー消費量を人口で割った値は５倍程度に増えていることがわかる。

問３　9　正解は⑥

３か国の１人当たりＧＤＰおよびCO_2排出量の推移を示す統計と説明文の組み合わせ。具体的な国名を示していないところが共通テストらしい。

aは**ス**。１人当たりＧＤＰが３か国中最低（1万ドル未満）であることから、農業や軽工業中心の発展途上国と考える。

bは**シ**。１人当たりＧＤＰの伸びが大きいこと、１人当たりCO_2排出量が多いことから、国内に豊富な燃料資源の消費に依存して成長する新興国と判断する。

cは**サ**。１人当たりＧＤＰが高いうえ、この20年で１人当たりのCO_2排出量が低減している。よって、産業構造の高度化による脱工業化が著しく、またCO_2排出量の少ない再生可能エネルギーへの転換を進める先進国と判断する。

問４　10　正解は②

発電量の統計に基づいた会話文の正誤判定の組み合わせ。問２と同様に「量と割合」を考察させる内容を含んでいる。統計や会話文の分量が多いうえ、８択形式なので手際よく処理したい。

eは正しい。中国は、環境への負荷が大きい化石燃料による発電量が最も大きい。

fは正しい。化石燃料による発電量を各国の人口で割って比べる。主要国の人口規模を知っておく必要があるが、実際には概数での計算で十分である。

中国　47000（億kWh）÷14（億人）≒3400（kWh/人）

アメリカ合衆国　27000÷3.3≒8200

日本　8200÷1.3 ≒ 6300

ドイツ　3500÷0.8 ≒ 4400

カナダ　1200÷0.4 ≒ 3000

gは誤り。発電量の構成比では、ドイツよりもカナダの方が化石燃料の割合が低く、再生可能エネルギーの占める割合が高い。

問5　11　正解は③

森林・木材に関する統計グラフの判別組み合わせ。3種類の統計を三次元的に表現したグラフであるが、読み取るのに手間がかかるほどではないだろう。

ブラジルはL。ブラジルでは、開発や輸出向け伐採に伴うアマゾンの熱帯林の減少が問題となっている。

エチオピアはM。ブラジルと同様に森林破壊が深刻だが、その要因は森林資源の自給的な消費が中心で、輸出には回っていない。

ロシアはK。タイガと呼ばれる針葉樹林は、生産・輸送に有利な輸出向け木材の生産地であり、ロシアは世界最大の木材輸出国である。また、輸出資源の維持のために植林がさかんで、森林減少率は低い。

薪炭材はタ。エチオピアのような発展途上国では、農村部での電気・ガスの普及が遅れており、周辺の森林（広葉樹林中心の熱帯林）が日常の煮炊きのための薪炭材として伐採されている。

問6　12　正解は②

持続可能な資源利用に関する説明文の正誤判定。きわめて易しい問題である。

②は誤り。書かれているような状況は生じているが、伐採されたマングローブ林の再生は困難で、持続可能な資源利用とはいえない。現地の環境を収奪する形で安価に生産された食品を、多くの輸送用燃料を使って遠隔国へ輸出する仕組みは、循環型社会の理念に反している。

①は正しい。家畜の排泄物の利用は、各地の伝統的農法でみられる。

③は正しい。資源のリサイクルであり、循環型社会に寄与する。

④は正しい。デポジット（預かり保証金）制と呼ばれ、ペットボトルのリサイクルを促進する。

第３問　村落・都市と人口

問１　13　正解は②

空中写真の判読に関する文章の正誤判定。典型的な散村（散居村）が残る砺波平野の景観について問われたが、常識も働かせたい。

②は誤り。確かに「舗装されて幅の広い道路」に変わった道もあるが、そうでない細かいあぜ道も残されている。「ほとんど」という表現を疑いたい。

①は正しい。写真から明らか。

③は正しい。2009年の写真右端の中央部に家屋の密集する地区が出現している。

④は正しい。③で指摘した住宅地では１戸当たりの敷地面積はきわめて小さい。

問２　14　正解は②

人口分布と公共施設の立地に関する統計地図の判別。これも常識を働かせて考察したい。

交番・駐在所は**ア**。**ア**の凡例○は、人口密度の高い地区を中心に数多く分布している。市街地の治安を維持するための交番・駐在所は、警察署に比べてきめ細かく配置されている。

ごみ処理施設は**ウ**。**ウ**の凡例■の施設数は**イ**よりもやや多いが、その立地は比較的人口が希薄な地域に偏っている。悪臭などの公害と結びつきやすく、近隣住民との合意形成が難しいため、郊外に置かれることが多い。

市民ホールは**イ**。**イ**の凡例△は、各市町村の人口集中地区に１つか２つずつ置かれている。市民ホールの建設・維持・管理には多額の費用がかかるため、広域から集客することが期待されている。

問３　15　正解は④

大都市の各指標に関する統計地図を用いて、ジェントリフィケーションがみられる地区を判別する。用語で示された概念を実際のデータから考察させる良問である。

ジェントリフィケーションとは、問題文にある通り大都市内部の衰退地区が再生されて、富裕層が流入する現象（再高級化）のことである。よって、与えられた３つの指標との関係は以下の通りである。

(1)　以前は衰退地区であり貧困層が多かった→2000年の居住者の貧困率は高い（③・④）。

(2)　高学歴の専門職従事者（≒高所得者）が増えた→大学を卒業している居住者は増加（①・④）

(3)　地区の再生が進み富裕層が流入した→賃料が増加した（①・④）

問4　16　正解は③

ヨーロッパの主要空港における出発地域別航空便旅客数を示す統計判別の組み合わせ。各国の旧植民地などの知識が必要となる。

北アメリカはA。Aはロンドンの旅客統計で40％以上を占めることから、イギリスの旧植民地であり、現在も経済・社会の結びつきがきわめて深い北アメリカと判断する。また、世界的な経済の中心である北アメリカは他のヨーロッパ諸国とも結びつきが深い。

アフリカはB。キ以外ではAに比べて割合が小さい。

マドリードはク。スペインは中南アメリカの大半を植民地とした歴史を持つ。これらの旧植民地では今もスペイン語が使われており、スペインに多くの労働者を送り出している。

パリはキ。フランスは北アフリカ諸国（チュニジア・アルジェリア・モロッコなど）や西アフリカ諸国（コートジボワールなど）の旧宗主国であり、現在でも労働者の受け入れなど人的交流がさかんである。

フランクフルトはカ。消去法的に判別するしかない。

問5　17　正解は①

２か国の人口ピラミッドの判別。読み取れる内容を丁寧に吟味していきたい。

Dは外国生まれ。働き盛りの年齢層に偏っており、こどもや高齢者が極端に少ないことから、移民などの労働者を中心とした外国生まれと判断できる。

Eは国全体。少子化が進行しているといっても、②は極端すぎるだろう。

サはシンガポール。①をみると外国生まれで男性よりも女性が多い。シンガポールでは、工場労働者の他に、フィリピンなどから家事労働者として多くの女性移民を受け入れている。

シはドイツ。④をみると、75歳以上の高齢者が多い。高齢化の進むヨーロッパの先進国の特徴である。

問6　18　正解は③

４か国の出生率・死亡率の推移を示すグラフの判別。出生率は農村中心の発展途上国ほど高い、といった前提を理解することと、これらの４か国が先進国なのか発展途上国なのかといった基礎的な知識があれば難しくない。

マレーシアは③。発展途上地域の東南アジアに含まれるが、1980年代以降の工業化が著しく、出生率は低下している。

カナダは①。すでに1980年の段階で先進国であり、出生率は低かった。近年は移民受け入れの増大により出生率の低下に歯止めがかかっている。

韓国は②。20世紀の終わりに先進国の仲間入りした韓国だが、近年は極端な出生率の低下に悩まされている。

バングラデシュは④。かつて最貧国ともいわれた発展途上国だが、近年は繊維産業などの発達がみられ、女性の社会進出とともに出生率も低下しつつある。

第５問　ラテンアメリカ

A

問１　19　正解は②

２つの河川の流量を示すグラフの判別と文章空欄補充の組み合わせ。赤道の通過する位置を覚えておきたい。

Dの月平均流量の年変化を示す図はア。Dは北半球に位置し、サバナ気候（Aw）区を流れ、流域の熱帯草原はリャノと呼ばれる。サバナ気候では、夏（７月頃）の雨季と冬（１月頃）の乾季が明瞭に分かれる。

Eの年平均流量はDよりも少ない。平原を流れるDに比べ、高原上を流れるEは流域面積が小さい。また、その流域の一部はステップ気候の草原（カーチンガ）であり、降水量は少ない。

問２　20　正解は②

ラテンアメリカ諸国のエネルギー源別発電量の割合を示す統計地図の判別。標準的な知識が決め手となる。

水力はK。ブラジルでは南部の国境河川パラナ川にパラグアイと共同で建設したイタイプダムや、アマゾン川の支流に数多く建設されたダムなどにより、水力発電の割合が高いことで知られる。水力発電の割合が高い国としては、ブラジルの他に、カナダやノルウェーなども知っておきたい。

火力はJ、再生可能エネルギーはL。残った２つの凡例のうち、多くの国で主要なエネルギー源となっているJが、石油・石炭などを用いる火力である。中央アメリカでLの割合が比較的高い国はコスタリカである。コスタリカでは豊かな自然環境を資源としたエコツーリズムが発達しており、国を挙げて環境保全に取り組んでいる。風力や地熱を利用した発電の普及もその一環である。

問３　21　正解は④

ブラジルの農産物輸出に関する統計グラフについての説明文の正誤判定。第２問の問２・４でも問われた「量と割合」の考察が決め手となっている。

④は不適当。**図5**より、確かに1971年から2019年にかけて輸出農産物に占めるコーヒー豆の「割合」は低下しているが、**図4**で示された農産物の輸出額全体は増えている。2019年の農産物輸出額は500億ドル弱、そのうちコーヒー豆は6～7％を占めているので、およそ30億ドルと概算できる。しかし、1971年には農産物輸出額全体でも30億ドルには届かないので、明らかにコーヒー豆輸出額は増加している。

①は適当。ブラジルの大土地所有制に基づく農園をファゼンダという。

②は適当。1980年代から90年代にかけての農産物輸出額は横ばいないし微増だが、輸出総額に占める割合は低下している。これは、工業製品など他の輸出品の輸出が拡大したためである。

③は適当。2000年代には農産物輸出額が100億ドル前後から500億ドル前後まで急増している。これは、大型機械や遺伝子組み換え作物を導入して企業的な生産を進めた大豆など、輸出向け農畜産物の生産が拡大したことを反映している。

問4　22　正解は①

３か国のＧＮＩに関する統計の判別組み合わせ。３か国の性格を大まかにでも理解しておくことが必要となる。

ボリビアは**ク**。ボリビアは内陸国であり、産業の発達が遅れている。このため他の２か国と比べて１人当たりＧＮＩが著しく低い。

アルゼンチンは**カ**、ブラジルは**キ**。この２か国の判別にはＧＮＩに占める所得上位10％層の所得の割合を用いる。この指標は貧富の差の大きさを示すと考えられる。人口の９割をヨーロッパ系白人が占めるアルゼンチンに対し、ブラジルは白人54％、ムラート（混血）39％、黒人6％と多様性がある。また、リオデジャネイロなどブラジルの大都市では、ファベーラと呼ばれるスラムの存在が問題となっている。これらのことから、アルゼンチンに比べてブラジルの方が貧富の差が大きいと考えられる。

B

問5　23　正解は①

24　正解は②

問５・問６はチリとニュージーランドの比較地誌である。問５では、２か国の自然条件に関する文章を判別する。標準的な地誌の知識を必要とする。

①はチリのみに当てはまる。チリ北部には、沖合を流れるペルー海流の影響で生じる海岸砂漠の例として重要なアタカマ砂漠が分布する。

②はニュージーランドのみに当てはまる。ニュージーランドは全体として西岸海洋性気候（Ｃｆｂ）が分布する。チリの首都サンティアゴ付近は、大陸西岸にあって緯度的

にはヨーロッパ地中海と同程度であり、夏に乾燥する地中海性気候（Cs）が分布する。

③は両方に当てはまる。チリの南部、ニュージーランドの南島にみられる。

④は両方に当てはまる。いずれも環太平洋造山帯の一部である。

問6　25　正解は②

チリとニュージーランドの輸出統計の判別。XとYの判断がやや難しい。

チリはサ。チリは世界一の銅鉱産出国であり、輸出に占める鉱産物の割合がきわめて高い。

ニュージーランドはシ。ニュージーランドの主要輸出品は農畜産物である。

Xは北アメリカ、Yは西ヨーロッパ。両国とも、この期間に東アジアへの輸出が大きく伸びており、これに伴ってXやYへの輸出割合はいずれも低下している。しかし、その減少率でみるとYの下がり方の方が著しい。両国ともかつては旧宗主国（ニュージーランドはイギリス、チリはスペイン）をはじめとするヨーロッパとの結びつきが深かったものの、現在ではその関係が急速に弱まっていることを反映している。

第5問　地域調査（北海道苫小牧市）

問1　26　正解は③

地図に基づく景観の特徴に関する文章の正誤判定。東西南北や左右がわかっていれば簡単な問題である。

③は適当。駅のそばを通る国道を北西に進むと別の国道にぶつかって丁字路となっているが、その地点が湿地に面している。

①は不適当。南＝図の下から見ると樽前山は左手に見える。

②は不適当。鉄道付近から見てウトナイ湖は「左側」とはいえないし、距離や他の構造物の存在を考えると水面は見えないだろう。

④は不適当。西＝図の左に向かうと、市街地と樽前山の左右が逆である。

問2　27　正解は③

地形図に基づく河川流路に関する会話文の空欄補充の組み合わせ。落ち着いて処理したい。

アは沿岸流。河川から運ばれた土砂は、海岸線と並行に流れる沿岸流によって運搬・堆積されて直線的な砂浜を形成する。潮汐の力は、主に海岸線に直交する向きに働く。

イは冬季。苫小牧は太平洋側に面しており、南東季節風の影響で夏の降水量が多い。また、冬の降水は雪が多いため、すぐに河川に流れ込まない。

ウは大きく。河川の流量が大幅に減少するのだから当然である。

問3　28　正解は④

苫小牧港と室蘭港の貨物取扱量に関する統計グラフに基づいた会話文の空欄補充の組み合わせ。ここでも「量と割合」への考慮が求められた。

④は誤り。苫小牧港の「海外との輸出入量」は室蘭港よりもやや多いが、「海外との輸出入が占める割合（フェリーを除く）」をみると、室蘭港では半分以上を占めるが、苫小牧港では4割弱に過ぎない。

①は正しい。図3のbから読み取れる。なお、苫小牧港は人工の掘り込み港である。

②は正しい。図3から明らかである。

③は正しい。図3のaから読み取れる。

問4　29　正解は⑥

北海道と苫小牧市の製造業に関する統計の判別組み合わせ。苫小牧出身者以外の受験生を悩ませたであろうが、前問の職員のセリフもヒントにしたい。

食料品はC。食料品工業は北海道全域でさかんであり、苫小牧市が特にさかんな地域というわけではないため、北海道に占める割合はきわめて小さい。

石油製品・石炭製品はB。前問で「苫小牧港が整備されて以降、港湾に関連する産業も成長」とあるが、この港湾関連産業とは、輸入資源を利用した臨海型産業である石油化学工業などを指すと考えられる。このため、1971年から2018年にかけて割合の急増したBに該当する。

パルプ・紙・紙加工品はA。前問で「戦前に立地した一部の大工場」とあるが、港湾整備前であることを考えると、原料指向型の軽工業である製紙・パルプ工業がこれに該当する。1971年にはまだ大きな割合を占めていたが、その後は輸入資源の利用に伴って工業立地の分散が進んだため、割合が低下したのである。

問5　30　正解は③

苫小牧市内の2つの住宅地区の人口ピラミッドの判別組み合わせ。落ち着いて処理すれば難しくない。

地区dはキ。dは「工場従業員とその家族向け」の社宅であるから、今も昔も働き盛りの年代（30～40歳代）とその子供の年代に偏った世代構成になる。入居者は時代と共に入れ替わっている。

1995年はX年。地区eを示すカの人口ピラミッドをみると、X年の10年前から一斉に入居した人々が、（持ち家であるため）入れ替わることなく高齢化してY年に至る様子が読み取れる。

問6　31　正解は②

人口分布と増減に関する統計地図（メッシュマップ）に基づいた会話文の空欄補充の組み合わせ。ほぼ常識レベルで解答可能である。

Eはサ。市役所の西には「減少または変化なし」の地点が広がり、苫小牧港の北には増加地点が多い。

Fはチ。空欄Fの続きに「この取り組みは、温室効果ガスの削減にもつなげられる」とある。しかし、タのように「郊外で大型の駐車場を備えたショッピングセンターの開発」を進めると、郊外への人口分散が強まって、自家用車の利用度が高まるため温室効果ガスの増大に結びつく。一方、チのように公共交通機関の利用度を高めることは、市街地の拡散を抑え、温室効果ガスの削減に結びつく。